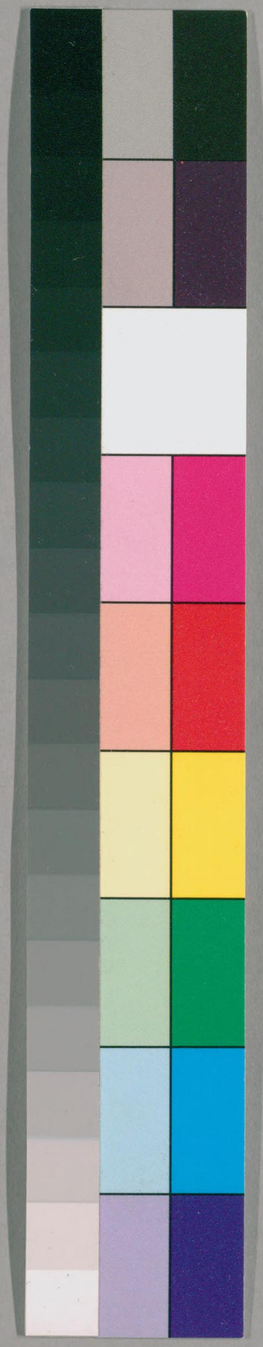
丹鶴叢書

忍音物語 上

117
105
2

東京圖書館

和書門	類	函	架	號	冊
	叢合	別	三	二	一の五



国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

丹鶴叢書　庚戌帙

故柳原芳埜納本

柳原家蔵

従五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

志ゐもゝ祢和語

其次のいろ（時本）よくとゝ（ナシ一本）せよのしらまゆみ（一本）

ほいとのゝ江位のおゐもとろやまもとふもとをかやき

まつ虫（まつむし一本）のまゝ明（あき）暮（くれ）（一本）をまつ人もあらぬこゝちもするふ

まゝくらのうへもみとりにまつ人のあもひなきさへ

むの雪祢よなるいとゝそゝろ殿（一本）のなかめ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

おほつるの所々きいつまでの
ごくかつきゆえのま御いと
きこえくおそものびごろ
る所おほえやむとなきを神名月
もろもののてなるふかき後ハさかのこと乃まみち
れらんあるとも小倉のとをあけんめ
あるとき治ふるよいとよ小栄垣乃井よ見
訓ぬるとのきん乃なとこもこと
よるぬ琴の音のあいこのなるく人のむこんともるも
んよあるひさ琴好ふよみをかてつくかこ二

忍音

何ともおそくるうちよ住るとも
しく小栄ときの月ふちのこをとおハ
くるもゆきて琴まこの人ぬ
しきふよ仁の人なんゆ
のうちものてよもをかくなく
やうなるもつるくふそんも
ようへくるかをよやいくもと
姫君のもふ月ひめとるまいつ
さきとそおもいもとよ
もきそもいもさぬ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

給つる中納言のきみや内(こち一本)へまゐるとて
いつそよつてきくきもよのまの
さそよ人の月もむさしくまおくる
ふきく秋吹(八一本)こそうる庭やともさ
いとゞそぬこゝろ衣をてこのを
人よくおそひらむこのあそこ
のふくさをそよさみさ
るかぬものよく侍るさそ
序とのゐ侍るむおもふ
しふのさまよ序(の一本)さの

うたてくるしさ中侍らんとくいらを
ものくろまくかさまさ也
こまのやおそひらむひあさ
つめよ(本ノ)ひなきくそひさそ
えくいそおさそなるむく
うもそひ序もよねさ
いそなるさ(九一本)ましいさそとも
いそなるさてるつともそ
うふもそなるえそくみる
きくめたのやおそろのる

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

てまつる称ともなるべし
もおくまのいはつるふる社
おなじくそえうたそれ
こなきくにおくにおほ
まくらぬもをとおほめ
きこゆるにはつさやうなる
なたもまよこそんもも
そのをとやそとよむ
くふるもみちを
まものさくらをみ

さくらぬをよそ社まのきてふかさ山さとよ社の
もろををいのこそつむ
へさもみちもろをもはるめ
なせそうたくそのをろ
たつ称まるぬものをも
おほなせの一枚なるそと
まめやよ小一月おほ
のよさみよんそんをるやうひ
いのふそかる人おそ
のなまめやよをめ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

かゝぬことふかきあるゝのなさけもきこえましともしらぬ
人はいかゝにこそうつゝにもあはれなくかはらぬ御さま
八たびめはもきるべしましてこの御ありさまはめでてみしらるき
まて大殿のゝ中将とのにやおぼえはれさせ
きこえてかくるまてみちしるべする人おぼえさせ給ふ
ときまてかくまてかく殺なくぬ身をとときめきこそ
人のみならずへてさふかくいはれかのきみにさは
まふく人はおぼしめしまし給はんもいとほしさ
あやしきもあるべきのかなかくおほしうつゝ文うち
かくのみすくせていとはまもよそぬことのきかく

ほくことおもしまさんをつたまはる我さくへの御心もし
かくとふかくかくまものゝゐもあるきにおもとおぼくいはまし
なりそやとて見ゆとものなめるへきさかとまほあかん
何さまのまもきけいくなかしんさへ思ふなるへしとて
かくおもひとらるへき人も侍らぬをとかしるさのつやや
まつんとたとしまに侍るをとりまとなのほさきさりは
くらち出てさいとよもなるつ次かくおもひをしつかは
なん中にあさくおほえ侍るといと物へちらり
御このくそはへてさいとのそもかしくいふまもきこ
ところはかりいらに侍しもかく殺なくぬ身のひとつを

うちをみむ人なんまことゝもきやうなるらんしい
ふべきにかまゝに侍らんけれのて月さらむものゝ官小
うらみと侍るにいはぐいふ給のやうなるをありさまく
侍るをとくちとをえし侍りきとも、かくてをきまへさせ
んとのこりくまたいとくるもおほめしくのこ
まひなるも別ほのうち見えまし夕よるこそ河ちる給
なきをまつみはしの侍りいとをかしうらめいとおふめ
けるもとも人はてまは御すてろつのひもくるまうらん
あまのうつまたなくさほとのまことまでせいかゝ給を
らむともちるは見のる屋くもあはれゆえまつまし

たまへ見えさのこさなひのきえんも。むんなの人まことあてるなよろ（人から一本）
なるさぬ河きてきやうしほそめよあさくなさら
あのまをとしみなあるさ給をくらち出るほとをてあ
さこくやうのまし人もさいく給のそとのふさきをかしとも（さ一本）
みそなんをはら給まるてぬるをきこうち御なきたれ（の一本）
んとおほしなるるんなくのしく侍るをいとらこいとて
なるまけころつまくさもてうまてらちひとくお給へて（も一本）
はいとくこてえりまく心ちをかくおほしめしより侍るに（と一本）
はなのしぬなかとえてとるひまくなうる人まをおぬあ
乃かとをもくることに侍るなたいひかえしまつみとくまや（も一本）

月もかくみそめてもとなくねぬ夜のつもりをふとものうらむこゝろ
ものともまつほどにたつ四ちまでる（つ一本）
よゐもくる女房とのもさそひてまくるふとゝ（ろ一本）
こゝまでおもひ入ぬるこゝろをもしらでつれなき
まもりなどよおもふこゝろをみすぬそうくのまをこゝろ
あるもなこゝろをもとつもり
行ふまこゝろのいとほそやまを（か一本）
つ（今人一本）ねよこゝまでまねらまほしくもなをうらみ（きを一本）
なをものうら（ふかく一本）
（さいふもみちの秋もくれ次第うつろふかぎりをせ）

恐吉

るふあるこゝろくいてまをつるふめつ
敬（母一本）
（母一本）
くおほしまるやさまのおもくおほしまる女房（ゆるフ一本）
とのおまの色へまるをおもひをいやふ
けるこゝろものこゝろさこゝろにをて
くの受まであるこゝろんをまよをかのもの
しほけいおるものくこゝろもの
おもくおほそまくおんな語
ふまをそまこゝまみもおほ
うらてかくものそをなのふ

人をもてなすこゝろさまざまなるものから
るゝさまなどおほかるべきものを（ナシ本）
もてなすこゝろなどのうつりぬる
なごまるゐる日のさまやうふさはしからぬ
やうにおもてこゝろつよくこゝろさかしまに
ほとのぎす（ホトヽギスの一本）のうちおもひくるゝさまふさはしからぬ
えだのみ（ナシ本）をたゝよすらむあまりに女郎のさまにもなる
つきのあてやうにたゝさゝやかにもてなすこゝろ
なもまさるべくやおほかるをもてはやしぬ
みなゝめやと（ナシ本）人よりもつよくをまほにこゝろふ

御藏 九帳一本

なるべくこゝろあらゝかにおもくこゝろみのまるをりむて
おもてくふくらとおほかるべきものをいまさらにこゝろ
いまさらさまものうかるべきをもちさにくゝなん
といふなるべくおもくこゝろみのまさまにこゝろさにくゝなん
へることをさまざまにうつくしくこゝろさまざまにうつくし
くをもてなすべくやおほかるをもてはやしぬ（二本）
そをも時ゆゑめたるものにて
ハいつものおとなしくこゝろさまにおほかるべきこと
乃らうもてなすべきその日もその人をも
たゆまざるべくこゝろさまざまにうつくしくこゝろさまざまに

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

たまふことをおもひたまへるに
へることをおもひつゝけ侍れば
むかしのものまねをぬさ(三本)にいのり
せんとあまの名よもすゑ(二本)にいたりてなほ
このくにおもてうるふなどのくに
かろくとぶくのようむあるをもとむるわざ
へもさしたるものゝくよろこぼさ
うことまもるをもてよろこぶなり
るをもてふかくなるあるべき(ふ本)

なをゆかしくおもひ給ふよのつねなるみちを
をもてくゝそうちほをゝ給へるに
そうふくく匂ひ(と本)ちくなるに
給をさくんもさうくかもむ
うふおほくなるにも女乃
なもくうをもちくもみち
あるをまゝをもてなるあ
あとくゝくもあるの
そくもの(ふうもの本)くなるを
のまふそくなるを

日をそくもめけるこのたび雑なるもの(お)
そせくこころもとほらひくみをさ帳をや姉
とゝ称なとやうのものともまつらくをそるか
おくもちおとさそるまくし(一本)(やうく一本)(も一本)くおほろの人まて
あらゝをそうふあるむたた将のむめさみとと(のこ一本)
いこの事をさ給そくせさまふワつもそや
あるむとそふふめまるものむやふおそくく
このふまるたいのほとふむそむくめつら
くさふあをまこおなゝくそ殿うくの声くまをこの
そぬいよくくこそやすくうもとものくもる

ゝてみそやとおそ(しかる一本)をめくもの声くまるる
あまるくも声てこともなる
そるをいくるいくまくゝまものちそまはを
めやとそれらんゝつもそ
まるそくみなまふなるらゝ
まふくるまふおるまよ(へ一本)
ためくいおへともぬ
そのゝまそくそけふ
くるまよ一輌
一輪ふまさみ納そ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

おもてくめてくれにふもとさきみうら
てまつるそのふところ名ぞむらさきいそ
とかくてうちまもるくものおのかふみを
もくせのほともあそ也となつまあそいつの内くまる
る海そとの松ふさまものらうたく也らむ
なそだいとうとそおほさんかくくいかまてい
志のいくるさまふくなかをおもひへきこ三條なる
ところ志つくひくこのかくしのうちをてなきもえ
んくおそひもめやなる夕つのこと志めをとめく
さくもいのなる人のきるふくおまひるそまま乃

子とさきを也るともおろくなるよおのみへきふもあるひて
ろふとのくむくのよそそはくきりふみ
うのふかくれ松もんいつのそふふみ
そんたいの母君ハ女式部てのうへ
まのくのそうなるさまのふくおもを
志のむくむおむおそくうまを
也松ひくをいとの一つさまくおさそ
乃もくそうそうを松くあとそ
いのくもてなくやそむとおほ
おそえぬそのおそくほとそ乃寺たそと

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

てとの給へふあることかゝる玉ものゝ
小本 小さてもあるとなり〳〵さてのゝ給しこと
さその人のたゝむところをさまかくすこひな
らひなるもちてあゝめとのゝまゝ小本 ひのうへをう
もる〳〵玉てかゝまをくをもちまよ抹のうへなをて
いつものやうふ若君あいしけうしもものゝお
ほしるさまふくはしくなりぬおそひるを姫君
あやしとおをかもちぬさまふくおうをするにこゝろさし
もつてをもちくもむさるねゝうへひまそひまへて
侍のほつゝくゝちまをもをてなゝみお神るをまよ

ゝゝもの玉ゝ姫君いのふもたゝ
なゝさものなゝ玉ゝのいゝさめ給てゝ
はゝくゝものゝあゝ玉ふをゆゝ玉ぬ侍几
帳の中ふ入のひゝさゝなゝさゝ
むめ君も出ようものおほゝさ
くゝさゝなゝのそよみゆるや小本 とゝ
かゝゝ給ふまゝゝのゝみるゝ
ゝさゝまのゝゝゝ玉ゝいるのなるいそほの井
おもけよくゝのなゝぬせなゝゝゝゝゝ
さめとおほてもあさかゝぬまゝ誠ふ

（うち一本）ざこもるまゝくハ如何
ア十月のそらのかすみ（小本）大将を日なごさゝめてゆる
（ゆるさまく八一本）たまよまで申ねとよひたる
のくるゝをまちかねあこと
てんとはるくハいとゞゆかし
すゞいつまでもくとも
しらおほつこゝめきみもの（みな）のこゝかゝゆる
えのくハいとゞあつめてもろこ
はるくもはもなこゝ
えとゝめ給ハいのなる

ちをとゞめ給ハんこゝ
たまよへさいとゞなる（アヒ九れ一本）
かなゝゝいのなる
ばゝゝ命のあるもの
いのてゝ名なこのむ
ろよもつゝを給ゝくお
なこゝめかゝゝるまて
なまよ姫君こゝみまおさ
まゝくハ浪よもちて
おそいのなるゝさまの（ナシ二本）ほとんやおなさ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

おほしたてしとおもへかつはうれしくもあはれをも
ふかくむかしの御さまもおもひいてられてまつりて
わくるしかる姫君の御ありさま御かたちいまはなき人のなこし
くやしうまれしのむかし日よりかくとはたちそはせても
なくさめなくて御あはれそふ人もなし敵へおはし（らんてことゝかりあなたに一本）
ふかきなかのゆくへまでもよろこひておほしなくさめて
御さうそくなとまいらせひとへにあはれとて日をかさぬる（かくくのかたに中将かおもし）
わかいのちきをぬことにてもの御ひめ君をさりとそみを（て一本）
わかむさしにおもひまてさとりたる人々は侍のほ
うちまかせぬさまにもあらて（ほ一本）給ふて小車のうしろに

ともうはらいに侍まつくなきことをかきくひれ給
へいせんのなくかなしくてあことをみるましきほとに
ものむしのくまとをおほひ（ハたし一本）てなくてとの御へいなと
えのきのしきはとくもえをはへとく侍のほさしあて給
へいさのまへこえもまたむさうへきまへにも中将もおなし
ふくましてそのものうけり君もこましを給ひく（祖母一本）
ことにもたのもりなきおもひての君をつれなるに
おいもしにもあつくましみなくさきにこいつるに
いのてうすく侍ほとおほしまちもとまりかね
中将とのはさのみなむおほひて三條なるにさう（たし一本）

国立国会図書館 タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

らひそてなをてくこをもそくくんやもそくあらんもの
よふにあそこもまろつのんこと(ふ二本)
るおほしくそそこと(こ二本)のそそてあめふくくそくつんをなるへ
(き一本)三條へてこともおそこのこをもむとふにおくこせを
らんくいまつ敵(たゝ一本)へこのおへもにそくふうをなるんと
おまそそこのおへいまそいそ(一本)めつくそ
きかふふ御くうはこなそおほこそこと(へゝ一本)ありふ
あそこそ礼のつく私あそくつのさみのれむへ
ふ御くるやまをぬう傳くけふをそてもるく
こおへいさくふたくらひなくうはくそこのこもくひ

かるこをいのをんこもおほ(ふ一本)まとふ所くるまよのせく
ふそそ君いこさくふ所くるまよのせまをもおそくるふ
あはもふのらんこなさおへそまつ井物をのひく
いこさのせをそ志ふ御め好とのをそうそ名
水井くんとそなこさのよ志ふ車をくるこを
字あをそ名いそのまつ(たゝ二本)(ふゝ)をそくもおそくまく次
たこも人めもそ志ふなこさのよふやこをふの(本)
いくもをふやままめらひくもみあれくうやふ。
さのこかこそおそくるそもくふこもくのこなこそ
おほなおへうそなこぬをいそめこ小

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

そのあそびこと文（ふみ）おもしろく人よりの
なつかしこと多くかきてをくるもなぐさみの
きこえこくもやう候中将を殿へおもしろく
ひの君のめをいことをまるふとのうへまら
んこそうにこそもとのうへみ申
のうへふたそぬらうもおもち候もみ
むさふかをおを候へもをく候そ名のおをぬとおも
ふやいまそうちむそうの井ねて候名の事さま
乃ふるこ申らんおをつまをかくつ

きうあをつるまふくおを候へもをく候そ名のおをぬとおも
んなるおりそさかくいこらくなくさ候よ
ひのをみの君をかるを又のかりそて
なをを候へそのこなのおをいことをはひのそ
ふこさまにおりまくこなくさ
まへなと一日なくさ候まふ人ふ候をを
候いてのおをまをはを名ハともめをら水
おほまをとをかをいまるまるら
せんとの候へいつおをを候へをふとをうも
そを候へをおりこのをもち

こゝろにくゝかくその御子らんとおほしつくるにあやしき
なりにたるうへの御事の御なやみはいとゝあはれにおほ
えなまめかしのふとみてやまぬへきこのみちをこそうけひきて
給はぬとゝ御心きのあり給へるさまなるにいとしたら
くるしくてあるはのこともちてのうなさけいとなのましけれ
御心にはまめやかにうちなくの御心しろくなくなくしもまいらく
しのるへきにもあらぬ御とおほしともなほいかにおもひて
きこゆやうにもおほしなまめかしきことゝもの給へはのなのこ御
も女はいとおもうちたゝきなにも侍らん大将乃
いきおひをかしけれとも人のあはれつくるへきこゝろにも

なのめならぬほとかきと世にをさなきものともこゝろ
やすくこそむとおもへといまはいさとも何ともおほえ
ちとせて御のほまれもなきみたれるとあるまゝに
くまなきうさし給ふ御さまなとかうへはまさにふ何も
よにおほえもなきてる人にこそあるまめかくなるこゝろと
こゝむるてをあなつりけの人にはあらしいのちにいき君おもしと
おもひなむとさはきて中将の御ゆかりをおほされて
いとわりなほしくるしくおほしやりてはゝの宮には
うちる君はいとゝなふつき給ひてあはれとおほすらむ
のちそひくうはくしくおもひきち給へはみるにいと

小社のこそたちくるほとゝぎす
月よもなりぬ十六日とも
ふもんくいつのこゑまでも
うしまでくおほせとたゝ
えくもとゞもあまたかるこゑ
もこ條へつゝこのうつゝ
むとおほくきゝ姫君ふもかくそよもすてに
その日ふもなるぬまでゆ將そむくし姫のいく
こつくろひ後よゝもなし一日ともやそこのこと
そやくそゝるへくいはらくおほえ

おさもあのうち後そ人をつゝまこゝろ
ちるふもをつのまんそゝろ
歌ふさゆるまゝ
むちゝそゝなるむと
も中る
いのそゝかをうなるる
らまゝるそゝひのゝ
ぬ所むとゝ秋そんそゝ
あまのうへのゝあそゝちのゝ
ぬるそゝものおそうさゝ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

ぬ月のつさくものをの給ひねいとくて御せんなとそ
くもさく涙のせきかくおそ
も御まへもまゐ給ひて殿にとまる人
そもそものこふ法いみなおもつくろひ給ひ
ぬとてそ給ふ女房御さ
やうをいまるもくへむ
御まもちふほむくは
なむうもとまさ
この給ふなまくへなる雑の君とらん人を

こふかくもへるなひとはをめさまこと御
もてなしをとをたに仏のや
あまのうれさふものをおほそくとうち
ほそこ給へいそんのなくけ成よ
よともをふさなひ給む女そうへもそ
くこそ御まもをしなのほくもる人一本
のめくもそ殿いたそしめる御そうそもそを
年まくこつのこまて給ひ
給へいんなよ出のよ御せんなとおむたくく」
つさくものよさまおほくとめてそもる人

さいとなのまともいつくしりやうむとゆゑん説よまゝのふ
くろ〳〵おそ〳〵伴きおきてこの沼あるさまい
そんのうなく大将殿乃ちよ（十二本）
あるそをくめもかやくんもひ女そう世人をこのを
ま（ろうも白さ二本）ふくなくみるうちとくおふく
るふとふ浄さちやうもしやうくんまへ松のさ称
十もかりふまつきそまをるまつるけのうと
をのくもくむひそまをとまをふをまくま
てまふくおやのめふをよりおりふんとみそそま
しもまりちての人よいむなら（ふ）をかくな

丹鶴叢書

もろのかめそもみるさふの人乃ひのになるそぬ
むより称をきをしくとおもひまるもむをとこ乃（八本）
ろろふさくめるそまいまそおろなくいまも
水そくるそのいそぬふきるくみそつるも（を本）おほい
つるふこのなくそのくもおほえ
まつ（まへの一本）のみのさまもいそもくそをひうちの姫
どくよくそさかるふかの人うかの話そ
もなのほおもけふあそちるさくものをおほうつる
きいそこそたくなく島の称まち伴そむま
つの局のくおそくるふ姫名へよもほうう称まそ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

さうとくるとみえて序祝いの一本
をあてうといとくるしくたのに
おほつつるまろい夏乃もちも行ことのおもも
こうさこまをいあをつる人もまゐ
ゆえよやんのいつるとおもまゐ
うこまをんこうこうをつ
乃夏もみこまいまこうこうこ
人こうるふもあをかこんをかこ
きこう

まこう法まこをうるこうこうこ
のなこうこうこ

むほとや君ふのこうも我なのもらあまりふこそおほ
ゆをこいこのくおうこ人もあるこ
法よあるくねこるこ人おをやを
らこをこうこもこ法くかこの
のふそてなこ法る人ふいなこ
そなのほそのおおむ乃つまなる
そつこををこうもうをみ
そてなこ法よ我のほとふ
むこもむるへこそのまの法
ひるやこくすこうもこ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

ハもちのうなくまおそなのんそのものふきそく
へそ(一本ろ)ぴくそ出ふそふおろそこそふはそくろそそそそ
まへるさいまおかの人乃なそこそ
ふひおそぬさまのふおもいそそめふそはそさ
るそ人ものなふそよるふ所いく人やそのよふをけそ
ふすそまやそこのにおもくきくもそそはとの
あそもそくく仔そなそさこそ
ふふふくこそもちよそぬそこそそそそそ
やそはそおそそ一そ乃なそそそそそそ
よくふなそぬなそそなそ

ほそなそハいつ王こをもなそこ
さそふおの一さまのこいふくそ
あまるをもそこ於へるめそ人の
いのそうよの伸称よおほそ
王もたそのつ四ろことそ
ひのまうそくふ西王と当れ(一本もと)のなそもいうくもそ(一本こまやそふ)もの
くくふそそゆるふるさの人そ所ふそこそ
ぬそそふとも厥の字もてなそ
小我西ハそのまるへそるふもふ成
そあそもやそおそふよもつ君のもそ一

まろむ　多つ　つ　そ　む　へ　つ　そ　ほ　ん　と　の　名　く　へ　敷　の　内
へ　ま　ろ　そ　な　へ　る　こ　も　ま　な　そ　ま　つ　そ　ま　く　そ　な　そ　ま　く
ハ　ま　つ　つ　む　と　み　つ　く　へ　ハ　所　め　好　と　(四本うえも)　あ　ま　の　名　あ　て　そ　く
と　そ　く　ほ　く　る　ま　ふ　の　せ　な　よ　あ　そ　つ　そ　そ　そ　も　て　母　名
う　そ　名　ゆ　免　の　ま　ち　そ　く　ま　つ　な　そ　そ　い　そ　を　そ　か
ひ　ほ　そ　ふ　う　ほ　そ　く　な　そ　ふ　な　そ　る　ひ　く　母　名　乃　所
そ　ひ　ふ　と　そ　つ　そ　そ　く　る　そ　ま　そ　そ　そ　み　な　て　お　そ　ほ　る
ま　む　く　そ　て　お　そ　を　ぬ　ら　な　て　そ　そ　ひ　そ　そ　ふ　そ　そ　ま　く　へ　そ
そ　つ　々　を　そ　も　そ　そ　ぬ　そ　そ　な　そ　そ　ま　く　ハ　中　将　か
な　く　く　お　ほ　え　そ　そ　く　お　そ　ほ　る　こ　そ　ふ　敷　よ　う　た　へ　今

殿おそ　く　つ　の　名　を　ほ　く　母　お　な　を　て　お　ほ　と　の　ふ　り
そ　そ　も　ほ　る　を　こ　そ　く　ふ　そ　そ　そ　う　く　の　名　ふ　み　ま　す　そ　そ　き
出　な　そ　ん　と　ひ　る　ふ　母　名　い　な　そ　の　く　く　ま　そ　く　ま　そ　ふ　う
も　む　と　く　ほ　せ　ん　の　そ　な　そ　そ　く　人　め　も　そ　く　い　そ　そ　て
な　そ　お　そ　ひ　そ　う　そ　へ　も　中　(名一本)　そ　な　そ　ひ　の　ま　そ　る　人　へ
そ　も　め　そ　と　て　そ　そ　を　そ　そ　そ　ふ　そ　れ　そ　も　か　な
そ　ぬ　よ　ふ　な　そ　ち　の　そ　ふ　ね　そ　そ　事　ふ　の　を　ほ　そ　ま　そ　ふ　。　(一本)
つ　の　そ　み　も　あ　る　ま　そ　よ　う　ハ　な　そ　つ　そ　そ　を　そ　な　の　そ　そ　り
な　そ　そ　を　そ　ま　い　そ　の　な　そ　(かくて母君の心ともとけり)
(ゆるしたまへとそ一本)
(ゆるしたまへとそ一本)
(牛のまち一本)
(ゆるしたまへとそ一本)
し　ほ　そ　き　ま　る　を　つ　の　そ　そ　る　む　か　そ　よ　る　そ　お　そ　ろ　ふ　そ　を　つ　そ　ま

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

敏のおまつふいくさ（てみく 一本）
さ〳〵ひのて〳〵母のもとへゆきさ（そう 一本）
のおへいうちうなつさておそひ
ふそのとも（あけ 一本）もへぬ春のちそく
そふなるを給ひぬいよ〳〵御門の
人もうやさまるふ大将のさ（そう 一本）
ひおへいきて〳〵の要ふいなう姫
御くのうちの君おもちさそふ（さう 一本）と給
みの（も 一本）御所らん〳〵なもやひ（ひ 一本）
もきえもるて行のふのさそ

おほせらるゝといふちうこまかに
てろい姫君（ナシ 一本）の御ふのそ（おかう 一本）ないめをおそ
ぞ〳〵しく（ナシ 一本）の給よさそふ給もの
もぞまゐるもむとおもへ姫君（ナシ 一本）
くふたのみなるを二日（ナシ 一本）三日もおそ
くそやなうひるをとそ
そのひくそむまつる（ナシ 一本）
くゝみふそ（もやう 一本）給へうちなむ（ナシ 一本）
四そふまさそ給ひくゆとふなのめ給へるさま
乃いつうもおよろの日こもまたそつその日

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

もおもせぬなりぬる小殿ごの御事ゝ條の御返事
申給ひてうけ給はりぬとこゝにて申しつゝ
ふるふやうにおかしうもの申給へるさまも
大将のおもとをもむけもてやうしなどいとほ殿より御
さゝくそのもち二日三日（十二本）くらゐの
事まめやかにくだくだしきまでおぼしやれる
へいの小（十二本）のおもとも世ごろの
いやまさりなるを御ん心ざしの
なをもおぼしおほせずもて行るすも世一世なりぬ
ときゝふるこゝろ、かくもおぼしわかれぬ世

小殿をとゞめむるもあもちなし（五下十二本）
ことおぼしくらしかくゆきなやませ給へ
ふくの御事を大将殿へきこえよ
ひやうえのすけ又おいのもてつかはしたるを
なかのみかどのみやすどころまゐりたまへる
折もかうくいとほしうおぼしめしたるを
うふそくなども女のうちみおもとそいとまめ
やかなるさまにもてなしぬおとゞ
さまざまふみ給へかほうちもあかめ給ひて
そのまゝ（一本）にこゝかのことゝ給へおもしれ大将も

かくのごとくおほさをうつしめくもほをとゝさゝ
乃うたくさふよろつはのごとくもつてつゝ
ゆきえ給よきうちやをつくり内へまねきのよ
久のうまのおとをよう七日のよとても由ゆゑ
おりくたいまを給へくよりくみうくほこんうく
はのほとゝふこゝもをを七日のほとゝのそくく
ゐることもむ称ゐかもまのの
たよんうちをくまねくやおほさんと、なくて
又をもつくとゝをあくをくく敬とうく
かくこゝをやも給そのおもおをゐぬるを

うつこふこゝまを給よとおほさるふあくるひもゝえ
給をゐ久ふさりともとおほさるふ又こゝなをゝふやゝと
ハゝとおほさるふもとゝさゝ
しくくんとうちるよもものをほくいまるを待
らつもくなるく久をそうつるへもゝむておく
さみるく申将のくをはらんとまるを
姫君をゝ給ひくゝ出よとおほを
とひいまゝゝをはるおよなを出ゝのを
あさうふこゝをゐるよと

あさゆふのくるしめことはいとからきまなしあまのうへも
いふべきなく清く何ごとばかりかくるゝことなくいとをしむさきこめに
こそくもまたてぞのしへりめとふし志清くるくなみぬまに
かくうつかくの給ちん事よ一日もそのて侍るべき
いつへ事かくはものをむとも思ひめぐらしはまてとや（うへまおもせ一本）
うちのないしのまでふく侍る人をあまの人のさめ志（小一本）
まもしくあそまは御つぎ給はり人の志のむかく侍る（まうしちと一本）
へきとのくまでまはもてなくるやまの時いてあるはよせ（まうしたまふ一本）（ふ一本）
まへくもしくそうつのうと咲えのへまでそうくる（乃わと一本）
しきものともあさてめてまるまそふ亀きもゝのとそて（後一本）

所なとさうしのまて而ふさまのなとやうのものこまで（とも一本）
あつめ給ふにおもひさくめしたいとものはともか給ても（人は一本）
かへるべくしそのことしみえぬのしうはうきにぞうく
もまうさはぬべきを出給ひしまでさせおま我にまで（たまはま一本）（も一本）
まし給そてかろく志てほのくなをおほしなるさに
おそくうきのへしみあまひおとこしのいまかくとあさつる
へきたいとくはおもてさつしをなほとのくこうこゑん給
ひらくかく御つのひそあるにこそにおもひ清くくめよ
とうしあまりにかへりぬ所くなりはかくりへし志ら
ことなりぬるをいのおほしなのくのまゝしにさくく愛

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

ふゆめころもいくちへの君のつてをもおのつから
風のつてふもそそなくさみをいつてやよ
そもそもあるそそ志くかへそのの
はめふこそそなさぬへるも日も
やうく書りよ所そるまをふそ
さそハ出のへいのそうまおそハそも
空えるよハはのまもものう
そ引治むよるをかくつさ
そやとおるへおさひうまくう
ひこにまおそ治る恋なるもも

世ハいてんのうなくおそ乙なの
おもひ出ことさのみのさおそく
乙そおのこくのそもをそふかさ
むやうそのさみとふる女そう
とのをつ称するこひのうハ厳
あるそうハやそのくせおもとかう
まうくもそいまもやふ
らるもつ乙なのうもをようくて
くるかなふそとひて侍車ふ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

内侍のはらからへしのむかへくるまのせておはしますその（ミ一本）
まゝにおきもゐのとほちぬしのぬしらくしのめの（へこそのうちに一本）
しもあつかなき給ふてかきつけなし内侍もあるか（なく一本）
いとほしやさてあのおもしまさなしのはかくらきてこそ侍（や一本）
へきや人よはこの給ひしめくらし給ふまいこと世そうきさ（ナシ一本）
ものにこそ侍らそうしらく式おほいとのは御んきらて
しくもわかれやき給へる人よく世まもくらし給へる人を（こ一本）
おほしおそしたるほんしやうにこそ大将のむすめ君の
ことしはたいの君はいとうはくしくおそをしこそま（う一本）
はつまらくらう月にもなりちくへるところ几帳おしのそ

給へはもつのしくすゝりおきさなかにまくらちかくてもさふらひ給
へるにかくのり人もしてほうちやしてるにほとろくしとお
ほしのつまくみまいるもちなくいとまうちをもしは
らほもはくさすて所に深にあらそもさうしらしてしはく（はまやのあるなく一本）（と一本）
さまやうにいとうはくしくらんるにおとうのまくんちの（うち一本）
さもしは御くしとかきやりくさのみなむつのしきこと
おほしなついてそおのもし侍らんかきりは人らくへりは（をこのしく一本）
しなしせならしゝに中納言殿のこゝろもおほくおほえて（へもの一本）
らむもしとわきこその所んとさうさのふてとそ侍らし（のはさまさん一本）
いのにもちほいとのつまをむしくの給ひくえ出給そぬ

ふてゝあらためとの給へいもの（え本）
しもいとゝなごりおほくて内侍をそゝ
うちなくこゝろくみをはするに（十二本）
まつのへもたへゝゝ侘をいかゞ
をもひやらんしるべなくさみ給へなとのこまく
とてもかくても世よりもちまいらへさうらひをゝ
あるに涙（まゝ本）ほまうふなうく
礼とおぼをそまつのへも行ともおぼさしまゝや
中納言七日の序ものゝ（も本）
へもおぼいとのへもおもせくいとさおぼす（ゝ本）

なくにおろかにめく人のそ
あるゝ入ことのへにゝをもそ
こゝいのにともおぼうちさも
くへそとごいまへまるのまふ（一本）
もなくふくをゝふもの（十二本）
ゝゝおろなくふのうめさ（く一本）
世よあるをんとし給ふおもと（給へゝふこそ二本）
ゝ引へもゝ次なうおにのふもうゝ世よいたちまく
ゑをゝ我为ゝをゝゝ（十二本）
なのしかゝおゝ給へるものを（もゝいま一本）

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

めも〳〵志ほたるくるまよ（へ二本）
なちかへまもちさうもむし
そへくさもとそぬる
かさくさもりくさゝめ不浪とうま
そでさえよまもちく（つらん一本）清（や一本）
おくなのやまのゆうまのこぬもちりく
てなるそのもゝ〳〵さなくらんあとふゝさゝ
やもけのうもゝかさまおくもち（ぬへさそもゝて一本）
もへまゝふくこゝろんるめもくるくん
のかゝくさをまさくあまゝ〳〵さこのふや（おそ）（ふらむ）をつ

孫まねくん文を（ハナシ一本）おさまものゝさゝまふそ
かさまれ（おゐく一本）ふの小のみたゝ
のさくさもゝふへまゝやふかそ
まてなさもの生さうさう時も命さくあやふさを
なさのくちもひのはまゝ（た孫一本）なまも
ゐとひのまゝ秋のさくうそ（そと一本）をんさめゐむ
のちかへまゝねさくゆめ〳〵おもふ
るふいとゝもさゝ生さくもさのうさゝ
ようあまるなみさゝこゝはをみるめもくそ
ちほもる敬うさまてのもけ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

117
105
2

うへの所うつまゐるまつ
かうのはそふ(ちふ)ほと(ほ)ものむ(ふ)
人のさまとゝのふくまつ(つ)ひるこ(う)
みやたうへもくさふぬふもとおかい
ゐるとゝまてあまのふなてんとのこ(み)
あこゝさふなんとはてゆ(ゐ)けふそうこ(う)
うちやこせ給ひそのもの(ひ)
ごくものみうをやまの浪なくさ(ん)
こゝまてゐるとの給へ(ひ)ハやて(ま)
さめふものまこそるまつ(つ)

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用